【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和３年度学校評価 結果

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	武雄市立御船が丘小学校
1　前年度 評価結果の概要	・保護者評価，学校関係者評価では，本校の教育活動に対しておおむね好意的な評価であった。本校の取り組みについて，理解・協力していただいているため，地域・学校協力の下，学校教育目標の達成ができた。 ・児童の学習保証，学力保証を確保し，安心・安全な学校生活を目指すためにも，引き続き「チーム学校」として，児童の心と体の成長を図っていきたい。 ・読書の推進については，生涯学習・キャリア教育の観点からも「読書は学びの基本」の考え方をもち，教科学習との関連を図るなどし，読書習慣が身につくように取り組んでいきたい。 ・「働き方改革の推進」に関しては，時間を意識した業務遂行など，業務改善を引き続き図っていきたい。
2　学校教育目標	**一人一人の個性を尊重しながら，自ら学び，考え，判断し，表現できる創造的な知性と豊かな人間性をもつ心身共に健康な子どもを育てる。**
3　本年度の重点目標	**①　気持ちのよいあいさつと，返事ができる子ども** **②　自分で気づき，考え，実行する子ども** **③　がまん強く，へこたれない子ども**

4　重点取組内容・成果指標				5　最終評価				主な担当者
（1）共通評価項目								
重点取組			具体的取組	最終評価				
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上。 〇家庭との連携，幼保・小中との連携を図り，よりよい学習習慣と生活習慣の定着を目指す。	・職員連絡会や校内研修等により，マイプランの取組状況を振り返る機会を設け，促進を図る。 ・TT及び少人数指導により，個に応じた指導を充実させ，基礎基本の定着や思考力の向上を図る。	A	・学力に関するアンケート調査で，肯定的に回答した児童が94.5%，保護者が86.1%，職員が94.6%であった。 ・マイプランと関連付けながら校内研究を計画的に実施し，授業力向上に向けた研究と，授業実践を推進した。 ・TT及び少人数指導に加え，校内研究に置いて，個に応じた指導や授業力向上に向けた研究に取り組み，授業実践を充実させた。	A	・個に応じた指導を充実させ、基礎・基本の定着や思考力の向上を図っているとのこと、大変ありがたい。 ・「大人数学級の一斉事業」から「少人数学級の個別授業」への教育環境や指導方法の改善（移行）が必要ではないか。※「協働的な学び」との往還を！	・学力向上対策C ・研究主任 ・指導法改善 ・TT少人数担当
	〇教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	〇教員のタブレット端末を用いた，指導方法の改善率85%を目指す。 〇ICT機器の効果的な利活用により，授業が理解できたと感じている児童の割合を85%以上にする。	・職員研修において，タブレット端末を用いた授業例の紹介および実践を行う。 ・ICT機器を活用した授業を毎日１単位時間以上実施し，効果的だった実践等を共有化する。 ・昨年度、実施率が低かった「表計算」「プログラミング」「交流ツール」を実施できるよう、授業モデルを紹介する。	A	・教員のタブレット端末を用いた，指導方法の改善率は95%であり、目標を達成できた。また、ICT機器の効果的な利活用により，授業が理解できたと感じている児童の割合は95%であり、中間評価から、さらに伸ばすことができた。 ・「プログラミング」「交流ツール」の授業モデルを紹介することができ、どの学年も積極的に実施していた。しかし、「表計算」を用いた授業モデルの紹介をできなかったので、来年度取り組みたい。	A	・ICT機器利活用教育の取り組みが行われ、授業等でも効果的に活用できている。 ・ICTやAIが進む今の時代だが、アナログ的な体験があってもいいのかなと思う。 ・ICT,オンラインの未知数の業務に、教員一人一人の負担が増加している。オンライン授業など教員の専門性や個人の力量を勘案し、「チーム学校」で対応を。	・教育情報化推進リーダー， 情報教育，ICT担当
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	〇年4回実施する「心のアンケート」で「学校が楽しい」と回答する児童の割合を90%以上にする。	・学年でのQUの分析、学級活動等への活用をする。 ・道徳便りを発行し、道徳教科化と評価への保護者の理解を図る。ふれあい道徳への案内を出すことで保護者の関心を高め、学校と家庭が協力して子どもたちの心の教育にあたることができるようにする。	A	・アンケートでは、児童・保護者ともに肯定的評価が90%を上回ることができた。 ・個人面談や教育相談に心のアンケートを活用することができた。個人面談では、よりよい学校生活が送れるように一人一人と面談する時間を設けることができた。	A	・心身ともに大きな変化が起こる小学生の時期に、友人関係や学校での活動に加え、親子関係は子どもに大きく影響を与えると思う。 ・学校の努力により、93.5%の児童が「学校が楽しい」との回答だが、残りの6.5%の意見が気になる。	・道徳教育推進担当 ・各学年主任
	●児童生徒が，人権に関する知的理解と人権感覚の涵養を通して，人間の尊さを知るとともに，あらゆる差別を見抜き，差別を許さない人格を養う教育活動	〇人権集会・平和集会で実施する人権に関するアンケートで，肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。	・年１回以上，職員の人権意識を高める職員研修の実施。 ・人権集会・人権週間での人権に関するアンケートの実施。	A	・11月実施のアンケート調査で，肯定的に回答した児童が95.8%，保護者が95.8%。 ・12月に人権集会を実施し、各学級からの「なかよし合言葉・人権標語」を発表し，校内掲示を充実させた。 ・「武雄市小中学生人権標語コンクール」に全学級で取り組んだ。 ・「人権集会便り」を発行し、全家庭に対し人権・同和教育の取組みを共有した。	A	・道徳教育、人権教育を中心に心の教育がすすめられ、児童の命の大切さや思いやりの気持ちが育ってきている。 ・人権同和教育は、大変難しい。 ・これからの市民社会の担い手として、子どもたちの「共生」の意識の醸成を。	・人権・同和教育担当 低中高 ・各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	〇いじめの防止・解決について組織的対応ができていると回答した職員90%以上	・学校生活アンケート（児童と保護者）及び児童との個人面談を年2回実施する。 ・心のアンケートを年4回実施するとともに，その都度職員連絡会等で情報を共有し，組織で対応する。	A	・2月に実施したアンケート調査で、肯定的に回答した職員は100%であった。 ・学校生活アンケート等から、特に配慮を要する児童については、学年団を中心に解決に向けて組織で対応することができた。今後も情報共有に努め、組織で全児童を見守っていく。	A	・いじめの早期発見、対応はとても大事だと思う。全職員で情報を共有し、組織で対応されていることはとてもいいことだと思う。 ・保護者との連携による情報、対応をさらに図っていただきたい。	（主）生徒指導 （副）各学年主任
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	〇「自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがある」と答える児童の割合を90%以上にする。	・ 各教科や学校行事等を通して，自らの夢や目標について考えさせる時間や場面を設ける。 ・自分のよいところを見つけるとともに、友達のよいところを見つけ励まし合えるような学級づくりをする。 ・体験的な活動に進んで参加し，自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たせるような活動を仕組む。	B	・2月に実施したアンケート調査で，児童の90%，保護者の80.5%が肯定的に回答していた。 ・キャリアパスポートを活用することで，発達段階に応じてめあてや目標，将来の夢について見つめ，自分自身を振り返らせることができた。 ・様々な活動を通して，自分の役割を自覚し責任を果たすことで，友達と協力しながら自信をもって活動できる児童が増えてきた。	A	・授業や学校行事を通して、考えさせる活動が行われていて、身近な目標や将来の夢について考える児童が増加している。 ・キャリアパスポートの活用により、自分自身のめあて、目標について見つめさせたのはとてもよかった。 ・「自分で気づき、考え、実行する」子どもの学びを促す教育活動の推進を！	（主）教務主任 （副）各教科主任

●健康・体つくり	❶「運動習慣の改善や定着化」	❶授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒60%以上	・昨年度の調査結果と比較し、記録の伸びを確認させることで、運動意欲を高める。 ・縄跳び週間を設け、全クラスで取り組ませる。 ・学習カードを活用した体育の学習を推進する。	A	・授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童が81%と高くなり、運動やスポーツに親しみを感じている児童が増えた。 ・縄跳び週間には、学校全体が意欲をもって取り組むことができた。	A	・授業以外で休み時間に外で遊んだり、体育をがんばっている児童が多い。(92.3%) ・外での遊びや自然との向き合いが少しかけているのでは？ ・校庭で遊ぶことの安全性について、子どもたちにソーシャルディスタンスを教え、子どもたち自身でお互いに声をかけ、きちんと間隔をとり、楽しく遊ぶことができればいい。※細かいルールを教師が決めて、指示するよりも子どもたち自身で考えるよう！	❶体育主任 体つくり部部長
	❸「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	❸「健康に食事は大切である」と考える児童100% 「朝ごはんを毎日食べる」児童　90%	・放送による食育指導の実施。 ・児童によるポスター作成の実施。 ・朝ごはん取り組みカードの実施。(6月、11月) ・給食試食会等を利用した家庭への啓発。 ・給食週間の設定。	A	・2月に実施したアンケート調査で，肯定的に回答した児童が94%，保護者が93.4%。 ・6月・11月に「早寝，早起き，朝ごはん」取り組みを実施し、1年生を対象にしたリモートによる給食試食会も実施した。 ・給食週間中，委員会で残菜の状況や給食ランキングを紹介。	A	・社会環境やライフスタイルの変化で、家族そろって食事をする貴重な機会が少なくなってはいないか、それぞれの家庭で考えているか、このことは子どもたちの心の教育にも関係してくると思う。 ・食の大切さはとても大事な課題で、身体は食べることで栄養になり、血・肉になることの再認識を深めてもらいたい。	❸給食指導
	❹「安全に関する資質・能力の育成」	❹児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	❹長期休み明けの交通指導の実施。 年度初めの交通安全教室(全学年)の実施。 休み前の鉄道安全教室(1年)の実施。	A	・2月に実施したアンケート調査で，肯定的に回答した児童が96.5%，保護者が95.6%であった。 ・長期休み明けに朝の交通指導を実施し，児童の交通安全と，交通マナーの定着を図った。 ・交通安全教室，鉄道安全教室，地震火災避難訓練を計画的に実施した。	A	・子どもたちが交通事故にあわないよう、地域でも指導をしていきたいと思う。 ・子どもが安心して学校に通うことができる環境づくりとして、通学路点検、道路の安全施設(歩車道分離の表示など)の整備、交通安全教育の連携を。ー道路管理者、交通安全協会、学校・地域・保護者の共通理解と各々の対策を。	❹安全・交通指導
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・職員室等の環境整備に取り組むことで，業務改善に向けた職員の意識の高揚を図る。 ・業務記録簿により自発的時間外勤務に係る時間を認識することで，業務効率化に向けた意識を向上させる。 ・校務サーバーや，校務シェアボードを活用し，校務分掌等の運営の効率化を図る。 ・週1日の定時退勤日を設定し，勤務終了後1時間以内での退勤を推進する。	B	・職員の超過勤務時間平均(4月～1月)は，4月と6月以外は45時間以内であった。 ・80時間超過勤務の職員(4月～1月)は，延べ17人(延べ割合3.3%)であった。 ・夏季休業中に3日間の学校閉庁日を設定し，5日間の休暇取得を推奨した。教職員が休暇を取得しやすい環境を整備した。 ・その日の待機時刻に見通しを持たせるため，管理職が積極的に声をかけるなどし，職員の意識改善を図ることができた。	A	・職員の時間外勤務時間が改善されている。さらに時間を意識した業務遂行等、業務改善を引き続き図ってもらいたい。 ・以前に比べ、時間外勤務時間の短縮が見られる。 ・チーム学校：教員の専門性を向上させ、学校内外と連携し、チーム学校を。 ・働き方改革：長時間労働を是正し、ワークライフバランスの向上を。 ・業務改善：業務効率(ICT活用等)・減量化により、「教員の学び」の時間を！	管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○要支援児童への支援体制の確立	○児童の実態に応じ、できるだけ早期に対応できるよう、学年や校内の支援委員会を定期的(月1回以上)に開き、校内支援体制を確立する。	・担任はチェックリスト等による対象児童の実態の把握やその結果を受けた適切な支援をPDCAサイクルに沿って実施する。 ・学年会で随時、情報交換および支援方法の相談を行う。必要に応じて、特支主任や特支CNが専門的な見地から相談に応じる。 ・「個別の教育支援計画」に基づいて，SCや専門機関との連携を図り，より実態に応じた支援を行う。 ・職員連絡会で随時，児童の情報共有の時間を設けて，全職員で共通理解を図る。	B	・児童の実態に応じ、できるだけ早期に対応できるような校内支援体制を確立するために様々な取り組みを実施した。これらの取り組みに対して、保護者は91.3%、児童自身は88.6%、職員は91.9%が肯定的に評価している。 ・要支援児童への支援体制については、十分できなかった時間も多かった。	B	・要支援児童の支援体制が整っている。 ・「特殊教育から新しい特別支援教育への転換」の理念と実践 ①「みんな違ってみんないい」そして「どの一人(子)も大切にする」 「子どもたちはみな一人一人違う存在である」という発想で。(公教育の役割) ②一人一人の子どもの可能性を信じ、「学びと成長」のためにできることを！	・特別支援教育主任 ・特別支援教育C ・特別支援学級担任
○地域連携の推進	○コミュニティスクールの推進と確立	○公民館を核とした地域との連携に努め，情報交換や情報発信を行う。(年2回以上) ○地域行事における地域と児童との関わりを把握する。(年2回以上)	・公民館における児童関連事業の調整を行う。 ・授業や行事での，みふねサポーターの協力を推進する。 ・ホームページを50回以上更新し，学校の情報を地域等に発信する。 ・地域行事への積極的参加を児童に呼びかける。	B	・2月に実施したアンケート調査で、肯定的に回答した児童が86.1%、保護者が91.1%。 ・授業や行事においては、必要な対策を講じ外部講師を招いての学習や活動をできる範囲で行った。 ・ホームページ更新は目標の50回を超えた。今後は、内容の充実を図っていきたい。	B	・新型コロナウイルス感染症対策のため、現状での地域連携は難しい状況にあるが、緩和されたら実施してもらいたい。 ・「地域とともにある学校」をめざすためにも、学校が必要とする活動(例：コロナ禍の中での消毒活動など)に、保護者や地域住民のマンパワーの活用はできないか。	・コミュニティースクール
○読書の推進	○読書の推進を図るために，朝読書・リレー家読に取り組む。	○年間貸出数の目標を1～3年は100冊以上，4～6年は70冊以上とし，80%以上の達成を目指す。	・朝読書の時間(5分)には，必ず着席して読書するように指導する。 ・週に2回は図書室の本を借りるように呼びかける。	B	・2冊貸し出し券やプラス1冊券を発行したり、昼休みに借りるように呼びかけをしたりして読書推進を図った。2月末時点で1～3年100冊以上，4～6年70冊以上の達成率は全体で72%であった。	B	・ペーパーでの読書の時間、大事にしたい。 ・朝読書、リレー家読、図書の貸出し等、読書推進が図られている。 ・生涯学習の視点からも、読書は学びの基本。～ぜひ、子どもの頃に読書習慣がつくように、がんばってほしい。	・図書館教育

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・次年度への展望	・保護者評価、学校関係者評価では、本校の教育活動に対しておおむね好意的な評価であった。本校の取り組みについて、理解・協力していただいているため、地域・学校協力の下、学校教育目標の達成ができた。 ・児童の学びを保証し、安心・安全な学校生活を目指すためにも、引き続き「チーム学校」として、児童の心と体の成長を図っていきたい。 ・成果指標(数値目標)については、取り組み内容や今年度の達成状況を見て、段階的に引き上げることを検討していきたい。 ・「読書の推進」については、今後も学校・家庭・地域と連携しながら、児童が読書に親しめるような取り組みを引き続き行っていきたい。